

2021年7月16日

## 夏休み 見てほしいテレビ

～ 子どもたちが平和を考えるきっかけに ～

もうすぐ夏休みです。小中学校では、夏休みの宿題もいろいろ考えておられることでしょう。そこに一つ加えていただけたらと思います、今回は書きました。それは、表題のようにテレビを見ることです。最近の子どもたちはスマホやゲームに時間を費やし、あまりテレビを見ないようです。23日からオリンピックが始まります。家族で見られる機会が増えると思いますが、一方でこれからお盆過ぎにかけて、戦争や原爆、平和に関する特集番組も増えてくると思います。そこで、これを見るという宿題を出していただけたらと思います。それが子どもたちが平和について考えるきっかけとなるのでは。また、「オリンピックは平和の祭典」ともいわれます。このオリンピックをきっかけに、戦争と平和を考える夏休みになれば、こんないいチャンスはありません。

戦争（第2次大戦）が終わって76年。戦後生まれの人が8割を超え、「戦争を生きてきた人」は、少なくなりました。さらに、自（みずか）らの戦争体験を語れる人はわずかです。また、コロナ禍の中で、市内のいくつもの学校の「ヒロシマ」「ナガサキ」「オキナワ」の修学旅行ができなくなりました。そこで、こうした番組を家族と共に見て、平和について語り合えたらステキですよ。

私は戦後生まれ（昭和29年＝1954年）ですので、もちろん戦争体験はありません。でも、父親や近所のおじさんたちから、時々「聞かされて」いました。例えば、終戦間際の頃、あやめ浜の松林に飛行機（大津の海軍飛行学校の訓練機）が隠されていました。それをねらって艦載機（かんさいき＝太平洋側のアメリカ空母から発進した戦闘機）が何回か飛んできたこと。そのたびにみんな家や藪の中、あるいは橋の下へ隠れたこと。残念ながら、その機銃掃射で何人かが大けがをされたことなどです。一人は片足がとれたとも聞きました。また、野田に捕虜収容所がありました。敗戦直後、その捕虜たちが帰還するまでの2か月ほどの間、救援物資として米軍の大型飛行機から白い大きなパラシュートで食料などがたびたび落とされたこと。子どもだったおじさんたちは、オランダ兵からチョコレートやガムをもらったり、パラシュートのひもをもらって遊んでいたことなどです。

また、父親は14歳で「少年航空兵」に志願して、茨城県霞ヶ浦のほとりの土浦の「予科練」（海軍飛行予科練習生）に入りました。ここは海軍航空隊の日本一の基地があったところでした。そして、終戦間際には九州へ移動することになり、家族みんなで父が載っているであろう汽車を祇王のあたりまで来て見送りの旗を振っていたとのことでした。その汽車が神戸あたりになったところで日本の敗戦となりました。この「予科練」を卒業した24,000人のうち19,000がなくなったといわれます。「九州行き」は、「特攻」の可能性が高かったのではと思います。

一方、私が校長をしていた野洲小には職員室奥に文書庫があります。夏休み、時間があつたのでその整理をしていると、昔の学校日誌が見つかりました。昭和20年度のものがあったので、それをめくっていくと、多いときは2～3日に一回「空襲警報発令」と記してあ

りました。戦争中なので、詳しくは記されていませんが、この6文字の後ろには、子どもたちを守っている先生たちのさまざまな思いがあるんだろうなと思います。また、数年前の創立130周年記念事業のときに地域の方に教えていただいたんですが、野洲小にも大阪から学童疎開の子どもたちが来ていたそうです。校区のお寺に寝泊まりして、通学していました。大阪・難波駅のすぐ近くの旧浪速小学校の子どもたちです。三上小にも疎開児童が来ていたと聞きました。そのころ一緒に学んだ子が、今の小学生のひいおじいちゃん・ひいおばあちゃんの世代です。食べるものがなくて、運動場にサツマイモを植えていたということです。

ちょうど同じころ、隣の守山では7月30日の午後4時過ぎに、アメリカのグラマン戦闘機4機の空襲がありました。駅から出発し出した汽車をねらって、超低空からの機銃掃射。防空壕から首を出してこの飛行機を見た人（子ども）は、「パイロットの顔まではっきり見えた。」と言われていました。ここでは11人が亡くなり、22人が大けがをした大事件でした。でも、こういう被害はすべて「軍事機密」ということで、新聞には載りませんでした。この事件は石山の「東レ」に落とされた「パンプキン爆弾」（ナガサキ原爆の模型爆弾）に次ぐ滋賀県の空襲の直接被害です。

さらに、今、大津の唐崎には「自衛隊の小規模な駐屯地」があります。戦時中は、ここから今の皇子山競技場にかけては軍隊の基地でした。私が高校時代（1970年ごろ）まで、いくつものかまぼこ型の黄色い兵舎あとがならんでいました。また、唐崎小学校あたりには長い長い空き地がありました。これはかつての海軍飛行学校の滑走路跡でした。戦後25年たってもそんな「痕跡」が見えたんです。戦後すぐ、この基地はアメリカ軍に接收され、しばらく進駐軍の基地となっていたようです。私は大学に入るまで1年浪人をしました。そのとき、先輩の勧めで「ヨット教室」のコーチをしました。1泊2日コースがあって、お客さんと唐崎近くのヨットハーバーに泊まるのです。そのハーバー付きのホテルは、かつて進駐軍の将校用の宿舎でした。戦争映画に出てくるような軍隊の古い古い個室の大きなベッド、寝返りを打つと「ギーギー」とバネの音がしました。「ようこんなもんが残ってるなあ。」と感心したものです。

今、戦争体験者の高齢化によって「語り部」はどんどん減っています。子どもたちのひいおじいちゃん・ひいおばあちゃんの世代は、戦争を生きてこられた世代です。そして、その子どもであるおじいちゃん・おばあちゃんは、そんな戦争の話を「うんざりするくらい？」聞かされてきた人たちです。でも、今、孫のためならそれを語ってくれると思います。『身近にあった戦争』を考えるいいチャンスだと思います。

『戦争は最大の人権侵害』とも言われます。この夏休み、戦争と平和、そして、平和の祭典＝オリンピックを、子どもたちと一緒に考えたいものです。